Japan Study Group for Cell Therapy and Transplantation (JSCT)

高リスクびまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫に対する治療早期の FDG-PET を用いた、rituximab 併用の大量化学療法+自家末梢血幹細胞移植、あるいは R-CHOP 療法への層別化治療法の検討

-JSCT NHL10 -

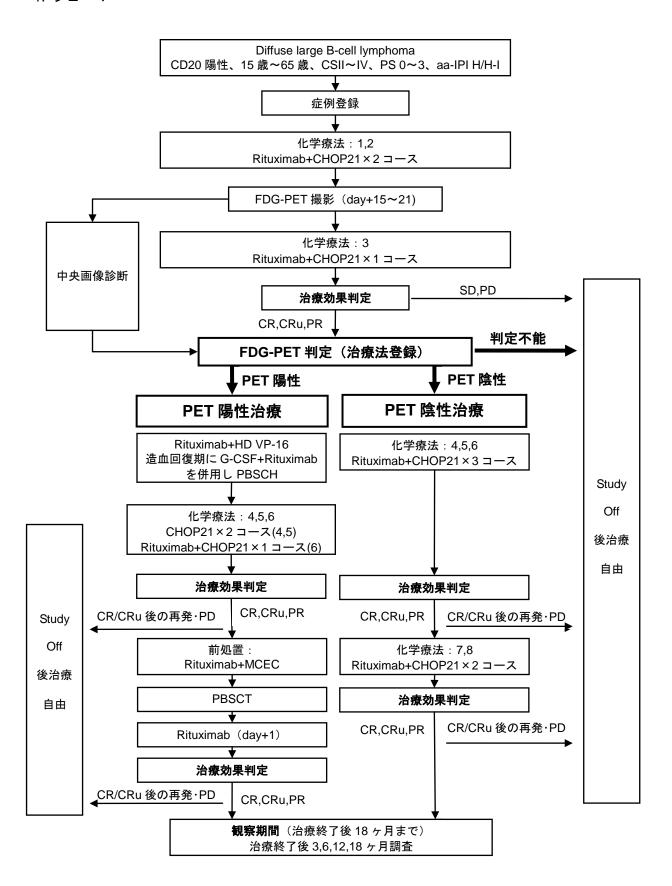
多施設共同研究実施計画書概要

研究代表者 : 国立病院機構 大牟田病院 原田 実根

研究責任者 : 九州大学病院 血液腫瘍内科 加藤 光次

副研究責任者:九州大学病院 血液腫瘍内科 沼田 晃彦

1. シェーマ



2. 目的

初発の高リスク(aa-IPI High、High-intermediate risk)の CD20 陽性びまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫(Diffuse Large B-cell Lymphoma; DLBCL)に対して、化学療法 2 コース後に FDG-PET を撮影し、結果を中央画像診断による視覚的評価で判定し、FDG-PET 陽性例に R-CHOP 療法計 4 コース及び CHOP 療法計 2 コース後に大量化学療法+自家末梢血幹細胞移植を、陰性例に R-CHOP療法 8 コースを行う。この FDG-PET 結果に基づく層別化治療法の有効性と安全性を検討する。

3. 選択基準

1) 組織学的に確認された Diffuse large B-cell lymphoma。

(intravascular large B-cell lymphoma 以外のすべての亜型を含む。「4.5. 成熟 B 細胞性腫瘍の WHO 分類(第 4 版)」参照)

- 2) フローサイトメトリーもしくは免疫染色にて、リンパ腫細胞の表面 CD20 陽性。
- 3) 測定可能な病変を有すること。
- 4) 年齢 15歳以上 65歳以下の症例。
- 5) Ann Arbor 分類による Clinical Stage (CS): II~IV の症例。
- 6) Performance Status (ECOG): 0~3 の症例。
- 7) 初診時の Age-adjusted International Prognostic Index が High あるいは High-intermediate の症例。(61 歳以上も、age adjusted IPI を適用する。)
- 8) 重篤な臓器障害のない症例。以下の基準を満たすこと

好中球数≥1000/mm³、血小板数≥7.5×10⁴/mm³

AST・ALT≦正常値上限の3倍、総ビリルビン≦2.0 mg/dL

(リンパ腫の浸潤が肝障害の原因と考えられる場合は可)

血清クレアチニン≦2.0 mg/dL

Ejection Fraction ≥ 50%,

酸素吸入なしの条件下で PaO₂≧60 mmHg(もしくは SpO₂≧90%)

- 9) 重篤な合併症を有しない症例。
- 10) 本研究への参加について患者本人の同意が得られている症例。ただし、未成年の場合は代 諾者及び本人から文書による同意が得られている症例。

4. プロトコール治療計画

4.1. 化学療法

- 1) 3 週 1 コースとして rituximab 併用 CHOP 療法 (R-CHOP-21) を 2 コース施行する (化学療法 第 1、2 コース)。
- 2) 第2コースの day+15~21 の間に、FDG-PET を撮影する。
- 3) R-CHOP-21 を 1 コース施行する (化学療法 第 3 コース)。
- 4) 効果判定にて CR、CRu、PR の患者に対し、FDG-PET の視覚的評価による中央画像診 断結果を基に、陽性、陰性を判定する。
 - 注)本プロトコールの効果判定は従来の判定基準に基づく。

4.2. FDG-PET 陽性治療

- 1) Rituximab 併用大量 VP-16 療法を施行し、造血回復期に rituximab、filgrastim を併用して 末梢血幹細胞を採取する。
- 2) CHOP-21 を 2 コース、R-CHOP-21 を 1 コース施行する (化学療法 第 4~6 コース)。
- 3) 効果判定にて CR、CRu、PR の患者に対し、移植前処置として rituximab 併用 MCEC 療法を施行し、末梢血幹細胞を移植する。移植後 day +1 に rituximab を単剤で投与する。

4.3. FDG-PET 陰性治療

- 1) R-CHOP-21 を 3 コース施行する (化学療法 第 4~6 コース)。
- 2) 効果判定にて CR、CRu、PR の患者に対し、R-CHOP-21 を 2 コース施行する (化学療法 第 7、8 コース)。

R-CHOP-21 (化学療法 第1コース)

	Day		1	2	3	4	5	6	7	8	 21
Rituximab	375 mg/m ² /day	div	1	(da	ay8	までに	こ投与	を終	子す	る)	
Cyclophosphamide	750 mg/m ² /day	div		\downarrow							
Doxorubicin	50 mg/m ² /day	iv		\downarrow							
Vincristine	1.4 mg/m ² /day	iv		\downarrow							
	(Max. 2.0mg/body)										
Prednisolone	100 mg/body/day	po/iv		\downarrow	\downarrow	\downarrow	\downarrow	\downarrow			
Filgrastim	75 μg/body	sc				適宜	[投与				

注)Rituximab、または、CHOP療法開始日を、day1とする。

Day1 の rituximab 投与が、infusion reaction が懸念される、CD20 陽性が判明していないなど、何らかの理由でできない場合は day8 までに投与する。

治療を急ぐ場合は、プロトコールに規定された以外のステロイドの投与を開始してもよい。 21 日毎に化学療法が施行できるよう、filgrastim を適宜投与する。

R-CHOP-21 (FDG-PET 陽性治療 化学療法 第 2,3,6 コース、陰性治療 第 2~8 コース)

	Day		1	2	3	4	5	6	7	 21
Rituximab	375 mg/m ² /day	div	1							
Cyclophosphamide	750 mg/m ² /day	div	\downarrow							
Doxorubicin	50 mg/m ² /day	iv	\downarrow							
Vincristine	1.4 mg/m ² /day	iv	\downarrow							
	(Max. 2.0mg/body)									
Prednisolone	100 mg/body/day	po/iv	\downarrow	\downarrow	\downarrow	\downarrow	\downarrow			
Filgrastim	75 μg/body	sc		適宜投与						

注) CHOP 療法は、rituximab の翌日の施行も可。

21 日毎に化学療法が施行できるよう、filgrastim を適宜投与する。

CHOP-21 (FDG-PET 陽性治療 化学療法 第 4,5 コース)

	Day		1	2	3	4	5	6	7	 21
Cyclophosphamide	750 mg/m²/day	div	1							
Doxorubicin	50 mg/m ² /day	iv	\downarrow							
Vincristine	1.4 mg/m ² /day	iv	\downarrow							
	(Max. 2.0mg/body)									
Prednisolone	100 mg/body/day	po/iv	\downarrow	\downarrow	\downarrow	\downarrow	\downarrow			
Filgrastim	75 μg/body	sc		適宜投与						

注) 21 日毎に化学療法が施行できるよう、filgrastim を適宜投与する。

Rituximab 併用大量 VP-16 療法(FDG-PET 陽性治療)

	Day		1	2	3	4	5		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		1	
Rituximab	375 mg/m²/day	div	\downarrow										\downarrow								
Etoposide	500 mg/m ² /day	lv		\downarrow	\downarrow	\downarrow															
Filgrastim	600 μg/body/day	sc					適宜	95			\downarrow		\downarrow		\downarrow		\downarrow	(↓)	(↓)
PBSCH																	Δ	(Δ)	(2	Δ)

注) 2回目の rituximab は PBSCH 開始前の 2日前を目安に投与する。

Rituximab 併用 MCEC(Ranimustine/Carboplatin/Etoposide/Cyclophosphamide)+ PBSCT(FDG-PET 陽性治療)

· - 1991—	1 19817											
	Day	-9	-8	-7	-6	-5	-4	-3	-2	-1	0	+1
Rituximab	375 mg/m²/day div	\downarrow										\downarrow
Ranimustine	200 mg/m ² /1hr div		\downarrow					\downarrow				
Carboplatin	300 mg/m ² /1hr div			\downarrow	\downarrow	\downarrow	\downarrow					
Etoposide	500 mg/m ² /6-8hr div				\downarrow	\downarrow	\downarrow					
Cyclophosphamide	50 mg/kg/3hr div							\downarrow	\downarrow			
PBSCT											∇	
Filgrastim	300 μg/m²/day div											適宜投与

注) 61~65 才の症例では、以下のように rituximab 以外の薬剤を 80%に減量する。

Ranimustine 160 mg/m² 1hr div \times 2 (day-8, -3))

Carboplatin 240 mg/m² 1hr div \times 3 (day-7 \sim -4)

Etoposide 400 mg/m² 6~8hr div $\times 3$ (day-6~-4)

Cyclophosphamide 40mg/kg 3hr div ×2 (day-3, -2) に減量する

5. 目標症例数と登録期間

目標症例数 : FDG-PET 陽性例として 27 例

症例登録期間:3年間(平成22年11月1日~平成25年10月31日)

主な解析:登録終了後2年間 すべての解析:登録終了後5年間

総研究期間 :8年間

6. 主要評価項目

PET 陽性例における登録後 2 年の時点での Progression-Free Survival (PFS)

7. 副次評価項目

- 1) PET 陽性例における登録後 2 年の時点での Overall Survival (OS)
- PET 陽性例における登録後5年の時点でのOS、PFS
- 3) PET 陰性例における登録後2年、5年の時点でのOS、PFS
- 4) 治療完了例における登録後2年、5年の時点でのOS、PFS
- 5) 適格例における完全奏功率、奏功率
- 6) プロトコール完遂率
- 7) 有害事象発生頻度
- 8) PET 結果別の 4)~7)の評価項目の解析
- 9) 適格例における化学療法2コース後のPETの結果
- 10) 肝 reference での PET 判定結果別の、PET 陽性例における登録後 2 年の時点での PFS、1) ~9)の評価項目の解析

8. FDG-PET 中央画像診断

本研究の FDG-PET 撮影条件および画像評価を標準化する目的で、がん FDG-PET/CT 撮像ガイドラインに準じ実施する。

FDG-PET 実施機関には、事前にがん FDG-PET/CT 撮像ガイドラインに従い、基礎実験を実施し 画像再構成条件が適切な分解能を有するか撮影条件を決定する。

化学療法2コース後の、FDG-PET 撮影画像は DICOM 形式で保存し、国立がん研究センターがん 予防・検診研究センター検診開発研究部へ提出する。

尚、化学療法2コース後のFDG-PET実施費用はJSCT研究会の研究費より支払われる。

9. 附随研究

症例登録施設は、登録根拠となる病理診断が下された代表的な組織標本(初発時)の未染標本 20 枚(フォルマリン固定パラフィン切片、シランコートスライドグラス使用)、もしくはブロック標本を久留米大学医学部 病理学教室へ提出する。提出された標本を用い、HE 染色のほか免疫染色として CD3、CD20、CD5、CD10、Bcl2、Bcl6、Mum1、Skp2、p27、EBER 等の染色を行う。

10. 研究組織

10.1. 研究代表者

Japan Study Group for Cell Therapy and Transplantation (JSCT 研究会) 代表幹事 独立行政法人 国立病院機構 大牟田病院 原田 実根

10.2. 研究責任者

九州大学病院 血液 • 腫瘍内科

加藤 光次

10.3. 副研究責任者

九州大学病院 血液 · 腫瘍内科

沼田 晃彦

10.4. プロトコール作成委員

国家公務員共済組合連合会 虎の門病院 血液内科 伊豆津 宏二 国立がん研究センター中央病院 血液腫瘍科・造血幹細胞移植科 福田 隆浩 金沢大学医学部附属病院 血液内科 近藤 恭夫 岡山大学医学部歯学部附属病院 血液・腫瘍内科 前田 嘉信 九州大学病院 遺伝子·細胞療法部 豊嶋 崇徳 九州大学病院 血液·腫瘍内科 宮本 敏浩 原三信病院 血液内科 伊藤 能清 福岡大学病院 腫瘍·感染症·内分泌内科学 高松 泰 久留米大学病院 血液·腫瘍内科 長藤 宏司

10.5. FDG-PET 中央画像診断パネル

横浜市立大学大学院医学研究科 放射線医学講座 立石宇貴秀(パネル代表) 大阪大学医学部附属病院 放射線部 巽 光朗 国立がん研究センターがん予防・検診研究センター 検診開発研究部 寺内 隆司

10.6. 生物統計担当

九州大学病院 高度先端医療センター

岸本 淳司

10.7. 効果安全性評価委員

兵庫県立がんセンター
大分大学医学部附属病院
財団法人慈愛会
 今村病院分院
 血液内科村山 徹
緒方 正男
高塚 祥芝

10.8. 附随研究 研究責任者 · 研究事務局

久留米大学病院 血液·腫瘍内科

岡村 孝

10.9. 附随研究 病理診断担当

久留米大学医学部 病理学教室

大島 孝一

10.10.研究事務局

九州大学病院 血液 · 腫瘍内科 加藤 光次

10.11.データセンター JSCT-NHL10 データセンター

10.12.FDG-PET データセンター

国立がん研究センターがん予防・検診研究センター検診開発研究部 PET 操作室 大崎 洋充

10.13. 研究支援組織

財団法人 地域医学研究基金(Resarch Foundation for Community Medicine)

10.14.研究実施予定施設

札幌医科大学附属病院 第一内科 第四内科 札幌医科大学附属病院 市立函館病院 血液内科 国立病院機構 西群馬病院 血液内科 東京医療センター 血液内科 虎の門病院 血液内科 亀田総合病院 血液腫瘍内科 西尾市民病院 血液内科

岐阜大学医学部附属病院 血液·感染症内科

近江八幡市立総合医療センター内科社会保険京都病院血液内科金沢大学医学部附属病院血液内科富山県立中央病院血液内科

岡山大学医学部歯学部附属病院 血液·腫瘍内科

岡山市立市民病院 内科 国立病院機構 岡山医療センター 血液内科 川崎医科大学附属病院 血液内科

香川大学医学部附属病院 内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科

愛媛県立中央病院がん治療センター 血液腫瘍内科 原三信病院 血液内科

九州大学病院血液・腫瘍内科浜の町病院血液・腫瘍センター

国立病院機構九州医療センター血液内科北九州市立医療センター内科九州厚生年金病院内科

久留米大学病院 血液・腫瘍内科

国立病院機構 熊本医療センター 血液内科

(2012年3月1日時点)